

令和7年度 第2回苦小牧市航空機騒音対策協議会

日時：令和7年11月27日（木）

午後6時30分

場所：JFEリサイクルプラザ苦小牧
2階 会議室

次 第

1 開 会

2 会長挨拶

3 部長挨拶

4 議 題

（1）報告事項

ア 米軍再編に伴う米軍機訓練移転について

①米軍再編に係る各基地の訓練移転経過について 【資料 1-1】

②沖縄県の負担軽減調査結果について 【資料 1-2】

イ 航空機事故関連について

①令和7年度（上半期）航空機部品等落下事案について 【資料 2-1】

②千歳基地所属F-15Jの部品等落下について 【※追加資料】

③新田原基地所属T-4練習機の墜落について 【資料 2-2】

ウ 運航自粛時間飛行に関する申入れについて 【資料 3】

エ 令和7年度要望活動結果について 【資料 4】

オ 令和7年度（上半期）新千歳空港における民航機の引き返し及び

目的地外着陸について 【資料 5】

カ BOD目標管理値を超えた空港排水の流出について 【資料 6】

キ BOD目標管理値を超えた空港排水の流出に関する申入れについて 【資料 7】

ク 新設調整池及び既設調整池に係る工事の進捗状況について 【資料 8】

（2）協議事項

ア 令和7・8年度再編関連訓練移転等交付金事業（案）について 【資料 9】

5 その他

(お知らせ)

令和7年7月11日
防衛省

米軍再編に係る国外への航空機訓練移転について

米軍再編に係る国外(グアム等及び米国アラスカ州)への航空機訓練移転(単独訓練)を、下記のとおり実施しますので、お知らせします。

今回で国外への訓練移転は、81回目及び82回目となります。

国外への訓練移転は、米軍飛行場周辺地域における訓練活動の影響軽減のために実施されるものです。

(1)嘉手納飛行場からグアム等への訓練移転

- 訓練期間:令和7年7月15日(火)～8月7日(木)
- 参加部隊:第18航空団(嘉手納)
- 参加規模:F-35A×12機程度、EA-18×5機程度
人員400名程度

(2)岩国飛行場からアラスカ州への訓練移転

- 訓練期間:令和7年7月17日(木)～8月8日(金)
- 参加部隊:第12海兵航空群(岩国)
- 参加規模:F-35B×10機程度、KC-130×2機程度
人員300名程度

※訓練期間の前後に、訓練参加機及び人員・物資の輸送機の展開・撤収が行われる予定。

※本内容については、今後、変更される場合があります。

(お知らせ)

令和7年8月22日
防衛省

米軍再編に係るグアム等への航空機訓練移転について

米軍再編に係るグアム等への航空機訓練移転(単独訓練)を、下記のとおり実施しますので、お知らせします。

今回で国外への訓練移転は、83回目となります。

国外への訓練移転は、米軍飛行場周辺地域における訓練活動の影響軽減のために実施されるものです。

嘉手納飛行場からグアム等への訓練移転

- 訓練期間:令和7年8月27日(水)～9月1日(月)
- 参加部隊:第18航空団(嘉手納)
- 参加規模:EA-18×2機程度、人員40名程度

※訓練期間の前後に、訓練参加機及び人員・物資の輸送機の展開・撤収が行われる予定。

※本内容については、今後、変更される場合があります。

(お知らせ)

令和7年9月5日
防衛省

米軍再編に係る嘉手納飛行場から三沢基地への訓練移転について

米軍再編に係る嘉手納飛行場から三沢基地への訓練移転（日米共同訓練）を、下記のとおり実施しますので、お知らせします。

三沢基地での訓練移転は、今回で12回目となります。

国内への訓練移転は、平成18年5月の「再編の実施のための日米ロードマップ」に基づき、二国間の相互運用性の向上と米軍飛行場における訓練活動の影響の軽減のために行われるものです。

1. 訓練期間：令和7年9月25日（木）～10月10日（金）

※ 訓練期間の前後に、訓練参加機及び人員・物資の輸送機の展開・撤収が行われる予定

2. 使用基地：航空自衛隊三沢基地

3. 使用空域：三沢東方空域及び秋田西方空域

4. 訓練内容：戦闘機戦闘訓練等

5. 参加部隊：（米 軍）第18航空団（嘉手納）

（自衛隊）第3航空団（三沢）

6. 参加規模：タイプII

（米 軍）F-35A × 8機程度 人員計220名程度

（自衛隊）F-35A × 8機程度

※ 本内容については、今後、変更される場合があります。

(お知らせ)

令和7年10月31日
防衛省

米軍再編に係る三沢飛行場から小松基地への訓練移転について

米軍再編に係る三沢飛行場から小松基地への訓練移転（日米共同訓練）を、下記のとおり実施しますので、お知らせします。

小松基地での訓練移転は、今回で14回目となります。

国内への訓練移転は、平成18年5月の「再編の実施のための日米ロードマップ」に基づき、二国間の相互運用性の向上と米軍飛行場における訓練活動の影響の軽減のために行われるものです。

1. 訓練期間：令和7年11月10日（月）～11月19日（水）

※ 訓練期間の前後に、訓練参加機及び人員・物資の輸送機の展開・撤収が行われる予定

2. 使用基地：航空自衛隊小松基地

3. 使用空域：石川沖空域

4. 訓練内容：戦闘機戦闘訓練等

5. 参加部隊：(米軍) 第35戦闘航空団（三沢）
(自衛隊) 第6航空団（小松）

6. 参加規模：タイプII

(米軍) F-16×6機程度 人員120名程度
(自衛隊) F-15×4機程度、F-35A×4機程度

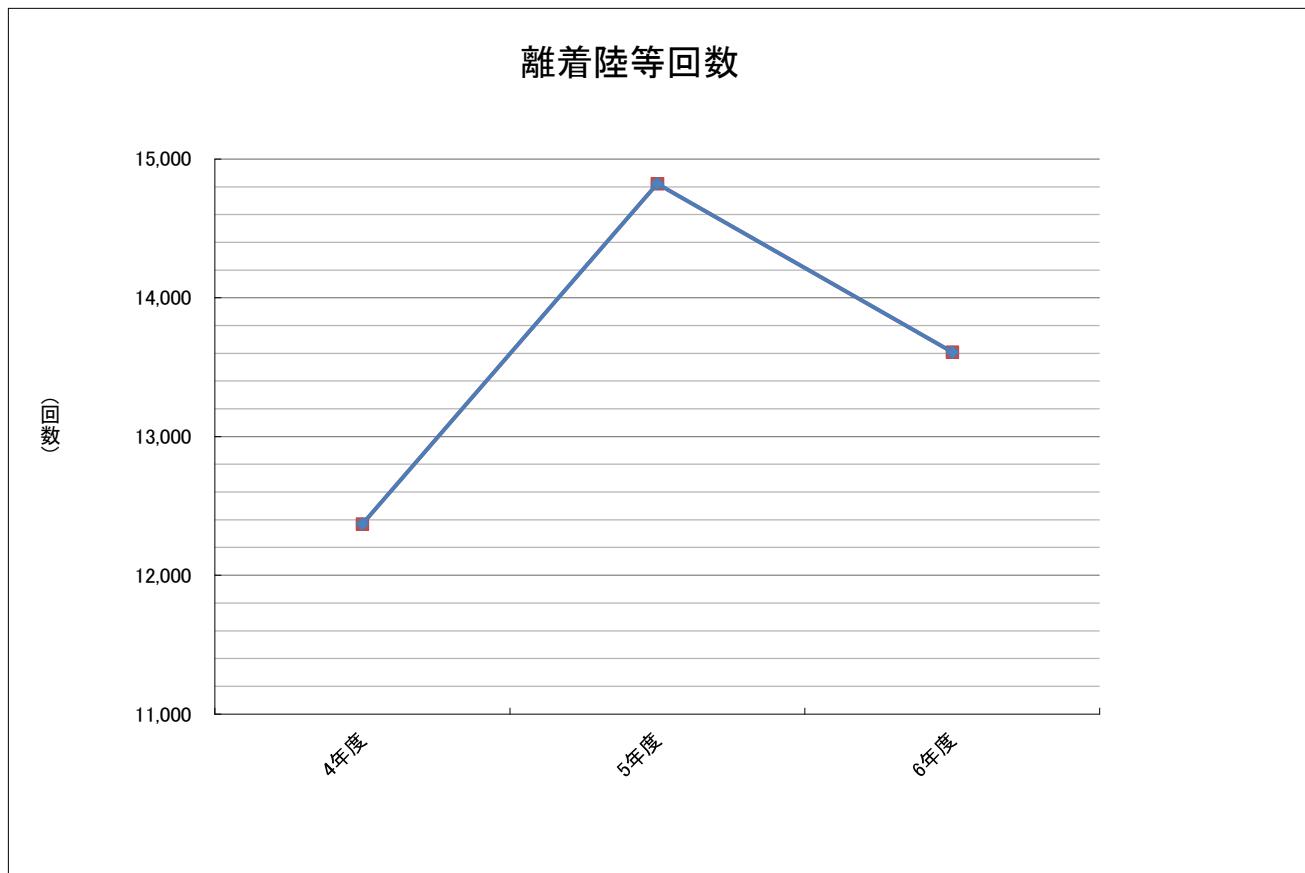
※ 本内容については、今後、変更される場合があります。

米軍再編に係る訓練移転に関する沖縄県の負担軽減調査結果

照会項目		沖 縄 市	嘉 手 納 町	北 谷 町
(1)令和6年度の環境基準超過日数を教えてください。	R5年度 (前回)	市内の5ヶ所の測定局 418 日	町内の5ヶ所の測定局 880 日	町内の5ヶ所の測定局 402 日
	R6年度 (今回)	市内の5ヶ所の測定局 318 日	町内の5ヶ所の測定局 722 日	町内の5ヶ所の測定局 330 日
2 カ 年 度 の 比 較		-100 日	-158 日	-72 日
(2)令和6年度の訓練移転実施により、貴市(町)への負担が軽減されたとお考えですか。		<p>沖縄の負担軽減に関して、各訓練移転先の協力については感謝している。 しかしながら、環境基準値を超過している地域があること、また、外来機の飛来や暫定配備による訓練が実施された場合、航空機騒音等に関する苦情件数は増加傾向にあり、常駐機の訓練移転による負担軽減がなかなか実感できない状況にある。</p>	<p>地域によっては、騒音発生回数が増加している地域もあるが、町域全体でみると訓練期間中は、若干ではあるが比較的騒音発生回数が軽減されているように見える。</p>	<p>本町の基地負担は、必ずしも軽減されていないと考えている。訓練移転実施の直接の影響を推し量ることは困難であり、どのデータで検証するかにより、評価が異なるため、視野を振る必要がある。</p> <p>R6年度の騒音の影響について、環境基準値の超過日数だけを取り出して減少(改善)したと断定することはできず、むしろそうとは言えない側面、つまり夜間・早朝のピークレベル別の騒音の影響の増加(悪化)や微減を見るべきである。したがって、本町のR6年度の基地負担は、騒音の対前年度比という観点からは、必ずしも軽減したとは言い難いと考えている。</p>

嘉手納飛行場における外来機の離着陸等状況

回数	R4年度	R5年度	R6年度
4月	1,028	1,070	1,355
5月	977	1,039	996
6月	1,371	986	989
7月	1,039	2,034	1,233
8月	958	1,192	1,194
9月	725	1,179	988
10月	841	2,066	1,456
11月	916	1,071	1,084
12月	1,002	1,172	1,057
1月	1,367	1,057	954
2月	921	843	1,020
3月	1,225	1,112	1,281
合計	12,370	14,821	13,607



※離着陸等を行った回数については、沖縄防衛局が目視により把握したものを集計。

※離着陸等とは、離陸、着陸、タッチ・アンド・ゴー、通過、旋回を指す。

令和7年10月23日
航空自衛隊千歳基地

令和7年度（上半期）航空機部品等落下について

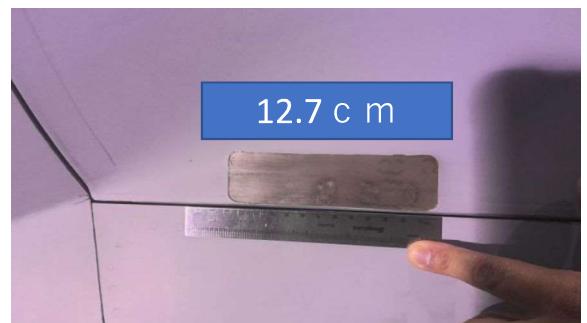
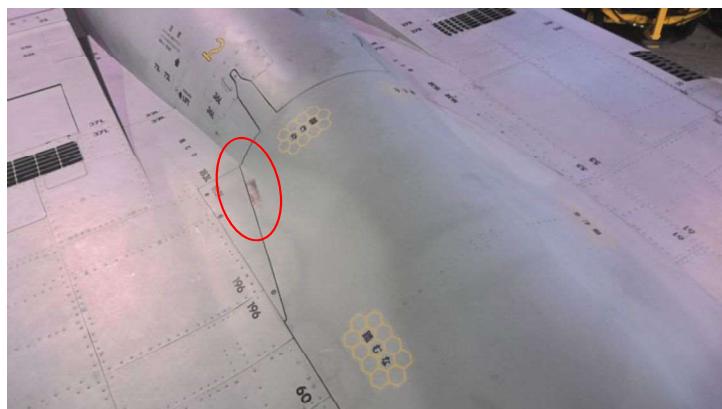
令和7年4月1日から令和7年9月30日までの間、航空自衛隊千歳基地において発生した航空機の部品等落下について、下記のとおりお知らせします。

記

番号	発生日時	発生場所	機種	落下部品等		
				品名等	大きさ	重さ
1	令和7年 6月30日(月) 02:02～09:25頃	アイルソン 米空軍基地 ～千歳飛行場	F-15J	パッチ	長さ：約127mm 幅：約31mm	約4g

(お問い合わせ先)

担当：航空自衛隊千歳基地第2航空団司令部監理部基地対策室
電話：0123-23-3101（内線：2214）



令和 7 年 1 月 26 日
航空自衛隊千歳基地

航空機部品等落下について

航空自衛隊千歳基地所属の航空機部品等落下について、下記のとおりお知らせします。

記

1 発生日時

令和 7 年 1 月 26 日 (水) 8 時 58 分～10 時 14 分の間

2 発生場所

千歳飛行場～日本海上の訓練空域 (推定)

3 所属及び機種

第 2 航空団第 203 飛行隊 F-15 J

4 落下部品等

(1) 品名

左フラップアップ・ストップ (左翼フラップの一部)

(2) 大きさ

ア 縦 約 40 mm

イ 横 約 50 mm

ウ 高さ 約 40 mm

エ 重さ 約 109 g

オ 材質 アルミニウム合金等

5 被害情報

被害に関する情報なし。

(お問い合わせ先)

担当：航空自衛隊千歳基地第 2 航空団監理部広報室

電話：0123-23-3101 (内線 2218)

(お知らせ)

令和 7 年 5 月 14 日
航空幕僚監部

新田原基地所属 T-4 練習機の航跡消失について

標記について、下記のとおりお知らせします。

記

1 発生日時

令和 7 年 5 月 14 日（水）1508頃（正確な時刻は確認中）

2 発生場所

県営名古屋飛行場から北東方向 約 13 km（入鹿池付近）

3 機種・機数（機番）

T-4 × 1 機（96-5625）

4 状況

令和 7 年 5 月 14 日（水）、新田原基地所属の T-4 が、県営名古屋飛行場を離陸後、セントレア・レーダーから航跡消失しました。

5 その他

細部は確認中です。

【お問合せ先】

航空幕僚監部総務部総務課広報室

連絡先：03-3268-3111（内線：60097）

FAX：03-5362-4816

(お知らせ)

令和7年5月14日
航空幕僚監部

新田原基地所属T-4練習機の墜落について（第2報）

標記について、下記のとおりお知らせします。

記

1 事案の概要

時間	内容
15時06分頃	当該機は要務のため、搭乗員2名により県営名古屋飛行場を離陸（ランウェイ34） 離陸後、セントラル・レーダーから航跡が消失 (県営名古屋飛行場から北東方向 約13km付近)
16時12分以降	航空自衛隊等による捜索救難活動
16時38分頃	浮遊物（航空機の一部、救命装備品等）を発見
16時42分頃	浮遊物（乗員の持ち物等）を発見
17時08分頃	浮遊物（乗員の装備品等）を発見

2 推定原因

確認中

3 操縦者の状況

確認中

4 機体の状況

発見した浮遊物から本機体は墜落したものと推定されます。

5 部外への被害状況

17時30分時点で被害情報はありません。

6 捜索活動状況

U-125A×1機、UH-60J×2機、人員36名

【お問合せ先】

航空幕僚監部総務部総務課広報室

連絡先：03-3268-3111（内線：60097）

FAX：03-5362-4816

(お知らせ)

令和 7 年 5 月 15 日
航 空 幕 僚 監 部

新田原基地所属 T-4 練習機の墜落について（第 3 報）

標記について、下記のとおりお知らせします。

記

1 搭乗員

- | | | | | |
|------|---------------------|-------|-------|------|
| ○ 前席 | 第 5 航空団飛行群第 305 飛行隊 | 2 等空尉 | 網谷 祥太 | 29 歳 |
| ○ 後席 | 第 5 航空団飛行群第 305 飛行隊 | 1 等空尉 | 井岡 拓路 | 31 歳 |

2 回収物品



【航空機の破片らしきもの】



【航空機の破片らしきもの】

3 その他

引き続き、現場周辺において、搭乗員及び当該機を捜索中です。

(お知らせ)

令和7年5月16日
航空幕僚監部

新田原基地所属T-4練習機の墜落について（第4報）

令和7年5月16日（金）、陸海自衛隊、警察、消防の協力による捜索活動において搭乗員と思われる体の一部を発見及び収容し、航空自衛隊小牧基地に搬送しました。

なお、引き続き捜索を継続しております。

【お問合せ先】

航空幕僚監部総務部総務課広報室

連絡先：03-3268-3111（内線：60097）

FAX：03-5362-4816

(お知らせ)

令和7年5月22日
航空幕僚監部

新田原基地所属T-4練習機の墜落について（第5報）

令和7年5月16日（金）以降、搭乗員と思われる体の一部を発見及び収容し、航空自衛隊小牧基地に搬送しました。その後、関係機関による所要の確認により、捜索していた2名の搭乗員であることが確認されました。

航空幕僚監部総務部総務課広報室

連絡先：03-3268-3111（内線：60097）

FAX：03-5362-4816

(お知らせ)

令和7年6月12日
航空幕僚監部

新田原基地所属T-4練習機の墜落について（第6報）

令和7年5月14日（水）の墜落事故以降、見合わせていたT-4練習機の飛行について、令和7年6月13日（金）以降、所要の対策を終了した機体及び操縦者から飛行の見合せを解除します。

所要の対策については、下記のとおりです。

記

○ 所要の対策

- 1 T-4練習機について、特別な点検による機体の健全性の確認
- 2 T-4操縦者に対する安全管理、緊急時の対応等についての教育・訓練

空幕僚監部総務部総務課広報室

連絡先：03-3268-3111（内線：60097）

FAX：03-5362-4816

航空自衛隊T－4練習機の飛行見合わせ解除について

令和7年6月
防衛省

事故概要

- 発生日時： 令和7年5月14日（水）15時08分頃
- 発生場所： 愛知県犬山市入鹿池付近
- 概要： 航空自衛隊第5航空団のT－4練習機が、新田原基地に向かうため、15時06分頃に県営名古屋飛行場を離陸した後、15時08分頃、県営名古屋飛行場から北東約13キロの入鹿池付近において、航跡が消失、その後墜落と判断しました。
- 被害状況：
 - ✓ 関係機関により、2名の搭乗員の死亡が確認されました。
 - ✓ 入鹿池の水中に損壊したT－4の機体が確認されるとともに、機体から流出したと思われる油が水面に浮いていたことが確認されています。

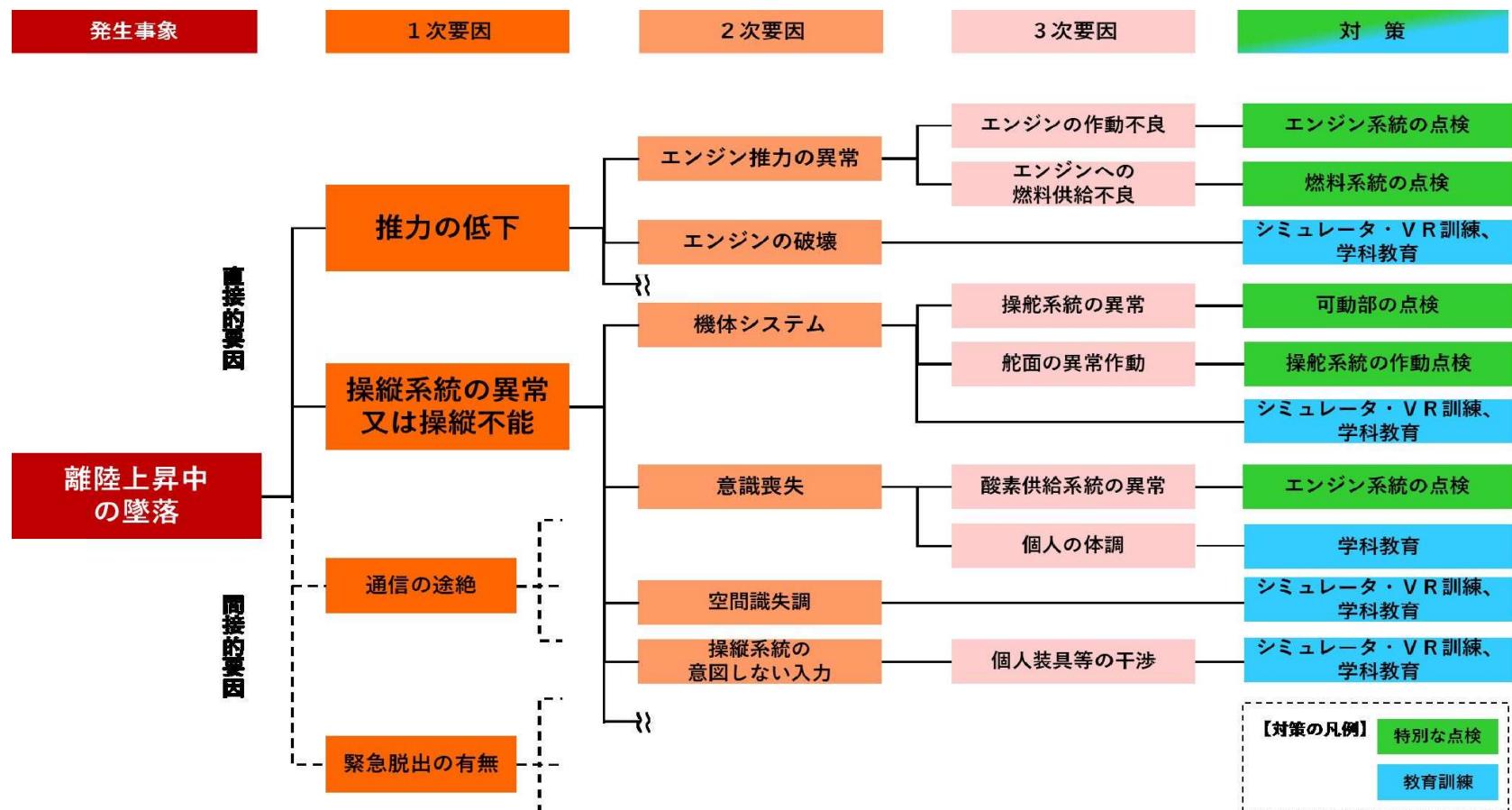
飛行見合わせの解除

- 事故発生直後から、T－4練習機の飛行を見合わせています。
- 事故原因については現在調査中であるものの、過去の事故において飛行見合わせ解除を判断した際と同様の方法（フォルト・ツリー解析）に基づき、考え得る全ての要因を踏まえ、次の対策を講ずることにより、飛行の安全を確保できると判断しました。
 - ✓ 全てのT－4について特別な点検を実施し、機体の健全性を確認
 - ✓ T－4に搭乗する全ての操縦者に対して、安全管理、緊急時の対応等に対する教育・訓練を実施
- T－4練習機は新たな操縦者を養成するとともに、既存操縦者の資格維持のためにも不可欠な機種です。
- 令和7年6月13日以降、T－4練習機の飛行見合わせを解除し、上記の点検や教育・訓練を終了した機体及び操縦者による飛行を再開することとします。

要因分析と対策

- 事故に至った要因として考え得る事象を、FTA（フォルト・ツリー解析）を用いて網羅的に列挙しました。
- 考えられる要因は、大まかに分類すると以下のとおりです。要因を1つに特定することはできませんが、考えられ得る要因全てに対して、対策を打つことにより安全の確保が可能と判断しました。
- 過去の事故においても、同様の分析及び対策をもって飛行を再開。かかる手法は、国際的に標準的な慣行となっています。

【FTAの抜粋】



対策の状況

特別な点検



エンジン系統の点検



エンジン試運転

パイロットに対する教育・訓練



シミュレータ訓練



操縦系統の点検



VRゴーグルによる緊急事態対処訓練

運航自粛時間飛行に関する申入れについて

1 日 時 令和7年7月23日（水）10時30分～11時00分

2 場 所 国土交通省 東京航空局 新千歳空港事務所 会議室

3 出席者 【苫小牧市航空機騒音対策協議会】

会長

松重 茂雄

副会長

三海 幸彦

副会長

丹治 有貴

【苫小牧市】

総合政策部長

山田 学

総合政策部まちづくり推進室長

神保 英士

総合政策部まちづくり推進室空港政策課長

笹村 久美子

同

主査

佐藤 隼也

環境衛生部ゼロカーボン推進室

技師

田村 侑也

4 対応者 【国土交通省 東京航空局 新千歳空港事務所】

新千歳空港長 黒川 俊之 以下9名

【北海道エアポート（株）】

新千歳空港事業所長 褐田 慶一 以下7名

5 申入書 別紙のとおり

6 回答及び意見交換要旨 別紙のとおり



運航自粛時間飛行に関する申入れ

新千歳空港の深夜・早朝時間帯における運用の自粛につきましては、これまでも天候等のやむを得ない理由によるもの以外の遅延解消につきまして、要望活動等の趣旨を御理解いただき、御努力いただいているところであります。

しかしながら、到着時刻の遅延等による運航自粛時間飛行は、令和6年度は過去最多となる729便発生し、理由の約半数が機材繰りなど、人為的な原因が多い現状にあります。

つきましては、航路下地域住民の生活環境を守るため、深夜・早朝の静穏保持という観点から、運航自粛時間飛行の一層の抑制につきまして、航空会社に対する指導強化を強くお願ひいたします。

令和7年7月23日

国土交通省 東京航空局

新千歳空港事務所 空港長

黒川俊之様

苫小牧市長 金澤俊

苫小牧市航空機騒音対策協議会

会長 松重茂雄

運航自粛時間飛行に関する申入れ

新千歳空港の深夜・早朝時間帯における運用の自粛につきましては、これまでも天候等のやむを得ない理由によるもの以外の遅延解消につきまして、要望活動等の趣旨を御理解いただき、御努力いただいているところであります。

しかしながら、到着時刻の遅延等による運航自粛時間飛行は、令和6年度は過去最多となる729便発生し、理由の約半数が機材繰りなど、人為的な原因が多い現状にあります。

つきましては、航路下地域住民の生活環境を守るため、深夜・早朝の静穏保持という観点から、航空会社に対して住民の意向を伝え、運航自粛時間飛行の一層の抑制につきまして、航空会社に強く要請いたしますようお願ひいたします。

令和7年7月23日

北海道エアポート株式会社
新千歳空港事業所 事業所長
袴 田 慶 一 様

苫小牧市長 金澤俊

苫小牧市航空機騒音対策協議会
会長 松重茂雄

申入れに対する回答及び意見交換要旨

－申入れに対する回答－

● 運航自粛時間飛行について

【北海道エアポート株）佐藤地域共生担当次長】

- ・新千歳空港においては、令和6年度は観光需要を中心といたしまして、過去最高の旅客数を記録した一方、深夜・早朝時間帯使用の遅延便数も過去最多となった。
- ・深夜・早朝の時間帯については、各航空会社には引き続きスケジュール通りの運航を行うよう、その報告を受けた都度、また、空港運用会議等の機会を通じて、協力要請を行っていく。
- ・航空会社においては、企業イメージ向上も図られることから、運航の定時制を重要視しており、ダイヤパターンや機材繰りの変更に鋭意取り組んでいる。

【新千歳空港事務所長島総務部長】

- ・国土交通省としては、航空会社に対し、遅延便の減少に向けた取組を継続して要請をしてまいりたいと考えている。
- ・また、航空会社においても遅延便対策として、ダイヤパターンや機材繰りの変更等に順次取組んでいる旨を聞いている。

－意見交換－

● 遅延便数の増加について

Q 【三海副会長】

- ・遅延便数が全く減らない、むしろ増加している現状をどう捉えているのか。直近でも、オーバーセールスによる調整により、1時間程度遅延したという状況も聞いている。このオーバーセールスという手法にも疑問を感じるが、果たして一生懸命やっていると言えるのか。
- ・色々な要因があると思うが、グラハム人員不足も影響しているのではないか。

A 【北海道エアポート（株）佐藤地域共生担当次長】

- ・遅延件数については前年比 101.7%、年間の便数の増加率は 105.3%、旅客数の増加率は 109.6%という数値と比較すると、各航空会社の努力も垣間見える。北海道エアポートとしても引き続き強く要請していく。
- ・現在は回復しているが、昨年はグラハム人員不足が厳しい状況であった。ただ、人員不足で運航するわけではないため、遅延便の増加に直接影響しているとは言い難い。

● 羽田空港の混雑の影響について

Q 【松重会長】

- ・原因の一つとして、羽田空港の混雑による出発遅延が大きく影響しているのではない

か。

- ・羽田空港は便を詰めすぎているでは。そういった照会は直接できないものか。

A 【新千歳空港事務所長島総務部長】

- ・交通流の制御というのもやっているので、離陸させて、逆に着陸できないということを避けるために、定時出発できずに待機をさせる場合もあると聞いている。
- ・羽田空港も全ての希望の便を受け入れているわけではなく、発着枠を設けてその中で運航しているところである。気象など様々な要因で遅延が発生しているのは事実だと思う。

● 調整池の工事、新管制塔の進捗状況について

Q 【丹治有貴副会長】

- ・調整池の工事の進捗状況と新しい管制塔の建設設計画について、進捗状況等をご教示いただきたい。

A 【新千歳空港事務所長島総務部長】

- ・新設調整池の遮水シート工事については、7月末で完了予定であり、その後、注水し浸透試験を実施することとなる。改良工事の工期は11月末を予定している。
- 既設調整池の掘り増し工事については、今年度中に調査を実施し、来年度以降に工事を予定している。
- 新管制塔は現在設計中であり、完成後は高さ105m、国内で3番目の規模となる見込みで、着工については令和8年度以降の予定である。

● 遅延便発生における各航空会社の対応について

Q 【山田総合政策部長】

- ・各航空会社への要請をその都度行っているということだが、どういった頻度で行っているのか。また、どの程度受け止めていただいているものか。

A 【北海道エアポート(株)佐藤地域共生担当次長】

- ・発生した都度、報告を受け原因・理由について確認し、再発防止をお願いしている。航空会社によって温度差はあるものの、地域住民との約束があることをご理解いただき、鋭意努力をしていただくことを申し上げている。

Q 【山田総合政策部長】

- ・そういった報告を受けて、具体的な提案はされているものか。

A 【北海道エアポート(株)佐藤地域共生担当次長】

- ・月単位や年単位、総合的にみて、おかしいところはこちらからも申し入れている。

● 共同運航便（ANA、AIRDO）の影響について

Q【神保まちづくり推進室長】

- ・遅延便数値を確認すると、令和6年度はANA便が増加し、AIRDO便が減少しているような状況であるが、共同運航の関係性はあるか。

A【北海道エアポート(株)佐藤地域共生担当次長】

- ・共同運航の影響はおそらくなく、運航機材の運航パターン自体によるものが大きい。令和6年度は21時45分着予定のAIRDO37便のことだと認識しているが、しおり玉突きで遅延が起きている状況であり、最初の便や真ん中の便で遅延が発生した場合、努力の甲斐なくして22時以降の到着になってしまう。この便については、運航パターンの見直しをしていると聞いている。
同様の時間帯の他の便についても、HAPとしても計画の見直しを提案させていただいたり、空港運用会議等の中でもご検討いただくよう、申し入れている状況である。
- ・各航空会社間で定時性を競い合っており、その部分は当然航空会社のイメージダウンに繋がるので、そこは無くそうという努力は鋭意していると聞いている。

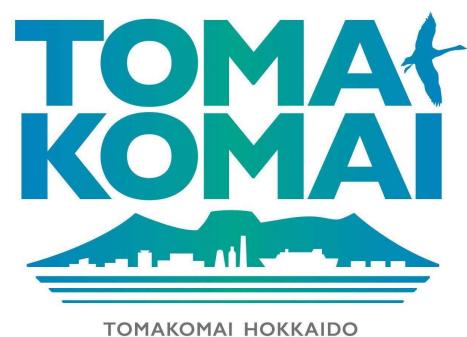
令和7年度
苫小牧市航空機騒音対策協議会
要望活動報告書

令和7年10月6日

札幌・千歳

令和7年10月16日～17日

東京



1 日 程 令和7年10月6日（月） 札幌・千歳
令和7年10月16日（木）～17日（金） 東京
詳細は別紙1のとおり（P 2）

2 要望活動者 苫小牧市航空機騒音対策協議会
会長 松重 茂雄 （札幌・千歳、東京）
副会長 三海 幸彦 （札幌・千歳、東京）
副会長 丹治 有貴 （札幌・千歳、東京）
委員 齋藤 謙吉 （札幌・千歳）
委員 千葉 英明 （札幌・千歳、東京）
委員 越川 慶一 （東京）
委員 山端 豊城 （札幌・千歳）
委員 竹田 秀泰 （札幌・千歳）
委員 牧田 俊之 （札幌・千歳）
委員 米谷 一夫 （札幌・千歳）
事務局長 山田 学 （札幌・千歳、東京）
事務局員 櫻井 理博 （札幌・千歳）
事務局員 笹村 久美子 （札幌・千歳、東京）
事務局員 佐藤 隼也 （札幌・千歳、東京）
事務局員 田村 侑也 （札幌・千歳、東京）

3 要望活動
(1) 要望先及び要望書宛先 別紙2のとおり
(2) 要望先対応者 別紙3のとおり
(3) 要望書 別紙4のとおり
(4) 回答要旨 別紙5～8のとおり

4 要望活動の主な質問に対する回答要旨
別紙9のとおり

別紙 1

令和 7 年度 苫小牧市航空機騒音対策協議会 要望活動日程

10月6日（月） 10：30 北海道防衛局
(札幌・千歳)
13：15 航空自衛隊 千歳基地

14：00 国土交通省 東京航空局 新千歳空港事務所
及び北海道エアポート(株)

10月16日（木） 13：00 橋本 聖子 参議院議員（藤原秘書対応）
(東京)
14：00 高見 康裕 國土交通大臣政務官

14：15 国土交通省 航空局
大田 圭 大臣官房参事官（航空戦略）

14：50 国土交通省 航空局
田口 芳郎 航空ネットワーク部長

16：00 國土交通省 東京航空局

10月17日（金） 9：00 山岡 達丸 衆議院議員
(東京)
10：05 防衛省 航空幕僚監部
市川 佳弘 総務部長

10：35 小林 一大 防衛大臣政務官

14：00 全日本空輸(株)

別紙 2

令和7年度 苫小牧市航空機騒音対策協議会 要望活動

- 1 日 程 令和7年10月6日(月) 札幌・千歳
令和7年10月16日(木)～17日(金) 【2日間】 東京
2 要望活動者 札幌・千歳 委員9名、事務局5名
東京 委員5名、事務局5名(東京事務所長を含む)
3 要望先及び要望書宛先名

■国会議員(議員会館:千代田区永田町)

衆議院議員 山岡達丸(国交省・防衛省分)
参議院議員 橋本聖子(国交省・防衛省分)

■国土交通省

国土交通大臣 中野洋昌
国土交通副大臣 古川康
国土交通副大臣 高橋克法
国土交通大臣政務官 国定勇人
国土交通大臣政務官 高見康裕
国土交通大臣政務官 吉井章

◎航空局(千代田区霞が関2-1-3)

局長 宮澤康一
次長 秋田未樹
航空ネットワーク部長 田口芳郎
大臣官房参事官(航空戦略) 大田圭

◎東京航空局(千代田区九段南1-1-15)

局長 大辻統
次長 鈴木努
総務部長 宮腰光彦
空港部長 林寛之
保安部長 植木隆央
安全管理官・安全統括室長 佐藤伸一
空港部次長・東京国際空港機能強化推進室長 山中俊直
総務部総務課長 梅澤紀昭
総務部地域航空事業課長 大柳剛
空港部管理課長 今田多加士
空港部地域振興・環境調整官 高橋英司
空港部空港企画調整課長 三浦義雄
空港部土木課長 宮崎次男
空港部建築課長 仲本政貴
保安部技術保安企画調整課長 岸本康照
保安部管制課長 柳川真宏
保安部管制技術課長 向政弘

◎東京航空局 新千歳空港事務所(千歳市美々)

空港長 黒川俊之

		騒音対策	防音	再編
■防衛省				
防衛大臣	中 谷 元	○	○	○
防衛副大臣	本 田 太 郎	○	○	○
防衛大臣政務官	金 子 容 三	○	○	○
防衛大臣政務官	小 林 一 大	○	○	○
◎防衛政策局（新宿区市谷本村町5-1）				
防衛政策局長	萬 浪 学	○	○	
防衛政策課長	川 上 直 人	○	○	
日米防衛協力課長	花 井 剛	○	○	
運用政策課長	黒 木 康 介	○	○	
運用調整参事官	森 田 健 司	○	○	
◎地方協力局（新宿区市谷本村町5-1）				
地方協力局長	森 田 治 男	○	○	○
地方協力局次長	末 富 理 栄	○	○	○
総務課長	濱 和 彦	○	○	○
地域社会協力総括課長	原 田 道 明	○	○	○
地方協力課長	林 太 郎	○	○	○
◎航空幕僚監部（新宿区市谷本村町5-1）				
航空幕僚長	森 田 雄 博	○		
総務部長	市 川 佳 弘	○		
◎航空自衛隊千歳基地（千歳市平和）				
千歳基地司令	渡 邊 正 人	○		
◎北海道防衛局（札幌市中央区大通西12）				
局 長	掛 水 雅 敏	○	○	○
次 長	宮 川 真一郎	○	○	○
企画部長	尾 崎 嘉 昭	○	○	○
企画部次長	出 野 健一郎	○	○	○
企画部地方調整課長	松 川 雄 一	○	○	○
企画部防音対策課長	千 葉 伸 之	○	○	○
企画部地方調整課 基地対策室長	横 田 直	○	○	○
企画部地方調整課 環境対策室長	奥 山 芳 行	○	○	○
企画部地方調整課 地方協力確保室長	尾 形 竜 二	○	○	○
管理部業務課長	三 芳 泰 寛	○	○	○

■北海道エアポート株式会社

代表取締役 社長	山 崎 雅 生
新千歳空港事業所 事業所長	袴 田 慶 一

別紙 3

令和7年度 苫小牧市航空機騒音対策協議会 要望先対応者

地元選出国會議員

自由民主党
立憲民主党

参議院議員
衆議院議員

橋本 聖子
山岡 達丸

国土交通省

国土交通大臣政務官		高見 康裕
航空局		田口 芳郎
大臣官房参事官	航空ネットワーク部長（表敬訪問）	大田 圭
航空戦略室	(航空戦略担当)	廣野 奮
〃	地域振興・環境調整官	江藤 一政
〃	専門官	田島 成一郎
〃	主査	菊地 志郎
航空ネットワーク部	空港計画課	稻又 政樹
〃	空港施設高度利用推進官	伊藤 謙作
〃	空港脱炭素化推進官	蔣田 和人
〃	課長補佐	渡邊 賢治
〃	専門官	一柳 裕作
航空安全推進室	航空事業安全推進官	雨澤 將志
〃	専門官	
航空事業課	企画調整官	
東京航空局 総務部	部長	宮腰 光彦
〃 総務課	課長補佐	原 純
〃〃	専門官	海老原 善夫
空港部	部長	林 寛之
〃	次長	山中 俊直
〃 安全管理課	課長補佐	初谷 直樹
〃 空港経営改革調整室	室長	徳永 行彦
〃 環境・地域振興室	専門官	内藤 勝
〃 空港企画調整課	課長	三浦 義雄
〃 土木課	課長	宮崎 次男
〃 建築課	課長	仲本 政貴
保安部	部長	植木 隆央
〃 技術保安企画調整課	課長	岸本 康照
安全管理官/安全統括室長		佐藤 伸一
安全統括室 整備審査官	次席整備審査官	木曾 豊彦
脱炭素化推進室	空港脱炭素化推進官	嘉数 高男
東京航空局 新千歳空港事務所	空港長	黒川 俊之
〃	次長	太田 信博
〃	総務部長	長島 功佳
〃	管制保安部長	三好 智也
〃	運航効率化推進官	和田 清員
〃	運用調整課長	米川 武志
〃	総務課長	杉山 力
〃	総務課長補佐	三浦 敬太
〃	総務課主査	鈴木 勝久

防衛省

防衛大臣政務官			小林 一大
防衛政策局	運用調整参事官		森田 健司
地方協力局	地方社会協力総括課長		原田 道明
航空幕僚監部	総務部	部長 (表敬訪問)	市川 佳弘
	〃	基地対策室長 (表敬訪問)	山本 仁
北海道防衛局		次長 (表敬訪問)	宮川 真一郎
企画部		部長	尾崎 嘉昭
〃		次長	出野 健一郎
〃	地方調整課	課長	松川 雄一
〃	〃 基地対策室	室長	横田 直
〃	〃 環境対策室	室長	奥山 芳行
〃	〃 地方協力確保室	室長	尾形 竜二
〃	防音対策課	課長	千葉 伸之
航空自衛隊千歳基地 第2航空団			
司令部	監理部	部長	田中 武
〃		基地対策室長兼広報室長	津曲 栄治
〃		基地対策室基地対策専門官	鈴木 紀壽

北海道エアポート(株)

本社	地域共生部	部長	萩原 康裕
	〃 地域共生課	課長	三村 行雄
新千歳空港事業所		事業所長	袴田 慶一
	空港運用部	担当部長	吉田 靖範
	管理部	地域共生担当	徳中 利安
	〃	〃 次長	佐藤 泰
	〃 総務課	係長	平田 真也

要 望 書

「航空機騒音の一層の軽減及び安全対策」について、別記理由により特段の御高配を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年10月6日

苦小牧市長 金澤俊

苦小牧市航空機騒音対策協議会
会長 松重茂雄

理由書

新千歳空港につきましては、北海道のリーディングゲートウェイとして発展を続けており、昨年度の旅客数はコロナ禍前を上回る 2,482 万人となり、1988 年の開港以来の最高値となっております。

一方、航空機の離着陸機数の増加等により、空港周辺の住民は、生活環境への影響や航空機事故に対する不安を抱えながら生活している状況です。

国におきましては、騒音軽減対策及び安全対策を実施されているところでありますが、さらに下記事項について、特段の御高配を賜りますようお願い申し上げます。

記

- 1 着陸時における住宅街での飛行高度を遵守すること並びに離陸時における通常の飛行コースを遵守すること
また、離陸時の飛行として住宅街を避けるコースを設定すること
- 2 運航自粛時間における飛行の抑制を徹底すること
特に、深夜の静穏保持の観点から、遅延便等の一層の抑制に向け、航空会社への指導強化を行うこと
- 3 低騒音機種への切替えを促進すること及び外国貨物機の騒音軽減について引き続き指導を行うこと
- 4 航空機等の点検整備など、安全管理を徹底すること
また、航空機事故の情報や事故原因、再発防止策等について情報提供すること
- 5 美沢川及び美々川等への環境対策に万全を期すこと
- 6 北海道エアポート（株）の安定的な運営を支援し、新千歳空港における安全対策等の維持・強化を図ること

要 望 書

「航空機騒音の一層の軽減及び安全対策」について、別記理由により特段の御高配を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年10月6日

苫小牧市長 金澤俊

苫小牧市航空機騒音対策協議会
会長 松重茂雄

理由書

新千歳空港につきましては、北海道のリーディングゲートウェイとして発展を続けており、昨年度の旅客数はコロナ禍前を上回る 2,482 万人となり、1988 年の開港以来の最高値となっております。

一方、航空機の離着陸機数の増加等により、空港周辺の住民は、生活環境への影響や航空機事故に対する不安を抱えながら生活している状況です。

貴社におきましては、騒音軽減対策及び安全対策を実施されているところでありますが、さらに下記事項について、特段の御高配を賜りますようお願い申し上げます。

記

1 着陸時における住宅街での飛行高度を遵守すること並びに離陸時における通常の飛行コースを遵守すること

また、離陸時の飛行として住宅街を避けるコースを設定すること

2 運航自粛時間における飛行の抑制を徹底すること

特に、深夜の静穏保持の観点から、遅延便等の一層の抑制に向け、航空会社への指導強化を行うこと

3 低騒音機種への切替えを促進すること及び外国貨物機の騒音軽減について引き続き指導を行うこと

4 航空機等の点検整備など、安全管理を徹底すること

また、航空機事故の情報や事故原因、再発防止策等について情報提供すること

5 美沢川及び美々川等への環境対策に万全を期すこと

要望書

「航空機騒音の一層の軽減及び安全対策」／

「防音対策事業」／「再編関連訓練移転等交

付金」について、別記理由により特段の御高

配を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年10月6日

苫小牧市長 金澤俊

苫小牧市航空機騒音対策協議会
会長 松重茂雄

理 由 書

千歳飛行場につきましては、航空自衛隊による通常訓練や政府専用機の訓練に加え、米軍再編に伴う訓練移転や他国との共同訓練などにより航空機騒音が増え、また、自衛隊機による部品落下事故も繰り返し発生しております。

千歳飛行場は、航空自衛隊の基幹飛行場として重要性が高まっておりますが、飛行場周辺住民は、航空機騒音に悩まされるとともに、戦闘機事故に対する不安を抱えながら生活している状況にあります。

国におきましては、騒音軽減対策及び安全対策を実施されているところでありますが、さらに下記事項について貴職の特段の御高配を賜りますようお願い申し上げます。

記

- 1 市街地上空での低空飛行を避けること
- 2 通常訓練の離着陸コースを遵守すること
- 3 運航自粛時間における飛行の抑制を徹底すること
- 4 訓練・演習における土日祝日の飛行を避けること
- 5 自衛隊機等の点検整備など、安全管理を徹底すること

また、自衛隊機事故等の情報や事故原因、再発防止策等について情報提供すること

理 由 書

千歳飛行場周辺整備事業につきましては、日頃から格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

厳しい財政事情の中にあって、逐年飛行場周辺地域の環境整備がなされており、感謝に堪えない次第でございます。

しかしながら、千歳飛行場の南方周辺は航空機の頻繁な離着陸による騒音障害と、米軍再編に伴う訓練移転の開始により、騒音がさらに増え、周辺住民の生活安定及び福祉の向上のための諸対策が強く望まれております。

つきましては、下記事項について、貴職の特段のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

記

1 住宅防音助成については、対象区域を70Wまで拡大するとともに、全室を対象とし、告示後の新築住宅についても対象とすること

理　由　書

在日米軍再編に係る千歳基地への訓練移転につきましては、平成19年に防衛省と千歳市、苫小牧市の間で協定が締結され、防衛施設が安定的に使用できるよう協力をしてきたところでございます。

しかしながら、在日米軍再編に伴う訓練移転による戦闘機の騒音など、基地周辺の住民生活に少なからず影響を与えていたのが実態であります。

つきましては、訓練移転が安全・安心して行われるよう十分な対策を講じるとともに、住民の福祉と生活環境の改善のため、下記事項について、貴職の特段のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

記

- 1 令和9年度以降も訓練移転が継続される場合、再編関連訓練移転等交付金の延長や新たな交付金制度の創設など、訓練移転に係る交付金を継続すること

要望事項に関する回答要旨（国土交通省及び北海道エアポート(株)）

要望事項	国土交通省 (航空局・東京航空局・新千歳空港事務所)	北海道エアポート(株)
1 着陸時における住宅街での飛行高度を遵守すること並びに離陸時における通常の飛行コースを遵守すること また、離陸時の飛行として住宅街を避けるコースを設定すること	<ul style="list-style-type: none"> ・着陸時における飛行高度の引き上げや、離陸時における住宅地域を避けた飛行経路の設定等、現時点で可能な対策を最大限講じている。 ・一方、航空交通の安全確保の観点から、やむを得ず市街地上空を飛行することも考えられるため、ご理解いただきたい。 ・引き続き、航空機騒音軽減に向けた対策を検討し、空港運営会社や管制機関と連携して、航空会社に対する指導や監督を適切に実施してまいりたい。 	
2 運航自粛時間における飛行の抑制を徹底すること 特に、深夜の静穏保持の観点から、遅延便等の一層の抑制に向け、航空会社への指導強化を行うこと	<ul style="list-style-type: none"> ・航空会社においては、遅延便対策として、ダイヤパターンや機材繰りの変更等に順次取組んでいる。 ・国土交通省として、航空会社に対し、遅延便の減少に向けた取組を継続して要請してまいりたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遅延等による運航自粛時間帯使用の都度、航空会社より通報を受けており、空港運用会議を通じて改善を要請している。
3 低騒音機種への切替えを促進すること及び外国貨物機の騒音軽減について引き続き指導を行うこと	<ul style="list-style-type: none"> ・航空機の低騒音化については、発生源対策が最も重要な手段と認識しており、これまで積極的に取り組んでいる。 ・環境に配慮した新型低騒音機材をはじめとした機材投資を促進するため、航空会社の新規機材導入に係る税の減免措置による支援を行っている。 ・今後、外国貨物機の運航が計画された場合には、騒音に配慮した運航となるよう航空会社と連携し、指導及び監督等を適切に実施してまいりたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・着陸料騒音課金の継続運用により、引き続き、低騒音機種への切替促進を行ってまいりたい。
4 航空機等の点検整備など、安全管理を徹底すること また、航空機事故の情報や事故原因、再発防止策等について情報提供すること	<ul style="list-style-type: none"> ・安全運航の確保については、航空業界の最重要課題と認識している。 ・国土交通省においては、安全運航の確保に万全を期すため、安全監査を通じて、整備点検等の実施状況を確認している。 ・航空法に基づき報告された安全上のトラブルについては、要因分析を行い、再発防止策及び予防安全対策に取組んでいる。 ・今後とも、安全運航の確保に万全を期して、航空会社等に対する指導監督を適切に実施し、安全・安心に対する信頼を得られるよう努めてまいりたい。 	

要望事項	国土交通省 (航空局・東京航空局・新千歳空港事務所)	北海道エアポート(株)
5 美沢川及び美々川等への環境対策に万全を期すこと	<ul style="list-style-type: none"> ・新千歳空港においては、調整池による希釈効果で有色ADFの色がわからないレベルまで希釈し、放流している。 ・これまでのBOD放流基準と併せ、環境に影響を与えないレベルでの水質管理・放流の徹底について、北海道エアポート(株)に対して適切に指導してまいりたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年発生した、放水ゲート確認不足による空港排水流出事案については、各種機能を点検確認し実施する。また、調整池を適切に管理するためのマニュアルを改定し、本年度より各調整池の監視徹底のため、ＩＶＴカメラを設置している。 ・一昨年より有色ADFを使用しており、引き続き、効率的な使用に努めるよう、冬期の安全運航を含め、航空会社に要請を行う。 ・排水管理については、使用後の水質調査のモニタリングを実施し、周辺環境保全に最大限配慮して、万全な管理徹底に努めてまいりたい。
6 北海道エアポート(株)の安定的な運営を支援し、新千歳空港における安全対策等の維持・強化を図ること	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の長期化、甚大化による航空需要の大幅な減少により、北海道エアポート(株)は大変厳しい状況に直面していたと承知している。 ・国土交通省としては、運営権対価分割金の支払いを猶予すること、運営権対価の追加支払いを求めることなく空港運営事業期間を3年間延長すること、空港施設の整備に対する無利子貸し付けを実施することなど、支援を行ってきたが、これらにより、必要な運転資金に関しては、現時点で問題ないという認識が示されている。 ・北海道エアポート(株)が新千歳空港における安全対策等の維持、強化を継続できるよう、引き続き、実情をよく伺い、安定的な運営が可能となるよう対応してまいりたい。 	

要望事項に関する回答要旨（防衛省）騒音軽減・安全対策

要望事項	北海道防衛局	航空自衛隊千歳基地 第2航空団	防衛政策局、地方協力局
1 市街地上空での低空飛行を避けること	<ul style="list-style-type: none"> ・飛行コース等の遵守については、引き続き基地に伝えるとともに、騒音等による飛行場周辺の影響を最小限にするよう、部隊でも深夜・早朝並びに土日祝日の飛行は、可能な限り回避するよう配慮していると承知している。 ・緊急発進や災害派遣等により飛行する場合があることについては、引き続きご理解願いたい。 ・今回の要望内容については、本省及び千歳基地の所在部隊にもしっかりと伝えるとともに、事故等に係る情報が入った場合には、関係各所と連携し、苫小牧市を含む関係自治体等に速やかに提供できるよう努めてまいりたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・飛行訓練については、航空法をはじめとする各種の関連法規を遵守し、実施しているところであり、他基地から飛行訓練等で来たパイロットに対しても、同様に教育指導を実施している。 ・今後も安全飛行を念頭に置きつつ、市街地上空の低空飛行を避けるよう努めてまいりたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・飛行訓練にあたっては、最低安全高度及び着陸時の進入角度に係る航空法等の規定を遵守するとともに、市街地上空等を極力避けた飛行を行っているところですが、改めてこれらを徹底してまいりたい。
2 通常訓練の離着陸コースを遵守すること	・同上	<ul style="list-style-type: none"> ・天候の状況等により安全確保のため、雲を避けるための飛行をしなければならないことをご理解いただきたい。 ・可能な限り、市街地上空の飛行を避けるよう努めてまいりたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練機は、千歳飛行場の運用規則等に定められたコースを基準として、離着陸を行っている。 ・気象状態やその時々の航空交通の流れによっては、飛行安全確保の観点から、管制官から出される指示に基づき、あらかじめ定められたコース以外のコースを飛行せざるを得ない場合もあることについてご理解いただきたい。

要望事項	北海道防衛局	航空自衛隊千歳基地 第2航空団	防衛政策局、地方協力局
3 運航自粛時間における飛行の抑制を徹底すること	・同上	・深夜早朝の飛行訓練を原則実施しないこととしているが、緊急発進や災害派遣等の任務、上級部隊が計画する演習等により、やむを得ず飛行する場合があることをご理解いただきたい。	・通常の飛行訓練においては、飛行場周辺の騒音軽減に配慮し、深夜・早朝の飛行は可能な限り回避するよう努力しているところであり、引き続き支障のない範囲で継続してまいりたい。 ・他方で、千歳飛行場では、各種任務遂行のために24時間運航を行っており、対領空侵犯措置、国賓等の輸送、災害派遣などの各種任務を実施するために、深夜・早朝の飛行もあり得ることについてご理解いただきたい。
4 訓練・演習における土日祝日の飛行を避けること	・同上	・通常の飛行訓練は計画していないが、上級部隊が計画する演習、航空祭及び他基地での展示飛行等に参加するため飛行する場合があるのでご理解いただきたい。	・通常の飛行訓練においては、土曜日、日曜日などの休日における飛行は極力避けているところであり、引き続きこれらの日における飛行は、可能な限り避けてまいりたい。 ・一定の期間連続して行う必要がある訓練等では、日程調整上、避けられない場合があることについてはご理解いただきたい。
5 自衛隊機等の点検整備など、安全管理を徹底すること また、自衛隊機事故等の情報や事故原因、再発防止策等について情報提供すること	・訓練に参加する戦闘機の安全確認については、平素より定期整備、飛行前・飛行後点検等を適切に実施しているが、引き続き徹底するよう我々からも伝えさせていただく。	・平素より、定期的な整備、飛行前後の点検を適切に実施するとともに、隊員教育を実施して事故防止に努めているが、これまでと同様、引き続き安全確保に留意してまいりたい。 ・万が一事故等が発生した場合には、苫小牧市を含む関係自治体等への速やかな情報提供に努めてまいりたい。	・訓練の際、事故により基地周辺住民の方々に不安を与えることはあってはならず、航空自衛隊は飛行前後の整備点検、各基地補給所等における定期整備、飛行安全及び品質管理上の重要な構成品等の定期的な交換等の措置を講じており、引き続き、航空機の点検・整備及び隊員の安全教育を徹底してまいりたい。 ・万が一事故が発生した場合には、これまでと同様に地元自治体等への速やかな情報提供に努めてまいりたい。

要望事項	北海道防衛局	航空自衛隊千歳基地 第2航空団	防衛政策局、地方協力局
※沖縄の負担軽減について	<ul style="list-style-type: none"> ・日米両国は、訓練移転の期間中、沖縄の飛行場における米軍の訓練活動の影響について配慮することとしているが、防衛省としても引き続き、米側には配慮要請を行ってまいりたい。 ・嘉手納飛行場に所属する航空機の訓練移転については、訓練の一部が本土等に移転されたことで、沖縄で本来されるべき訓練が削減されたことから、一定程度の負担が軽減されたと考えている。 ・騒音の実態把握にも努めており、実態を踏まえて米軍に対する申入れや、住宅防音工事の助成などの各種政策を通じて、周辺住民の負担を可能な限り軽減できるよう努めてまいりたい。 ・今後とも米軍に対し、嘉手納飛行場における騒音の軽減がより一層図られるよう協力を求めるとともに、着実に訓練移転を積み重ねる努力をしてまいりたい。 		

要望事項に関する回答要旨（防衛省）防音対策

要望事項	北海道防衛局	地方協力局
1 住宅防音助成については、対象区域を 70Wまで拡大するとともに、全室を対象とし、告示後的新築住宅についても対象とすること	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅防音工事については、環境基本法に定められた航空機騒音に係る環境基準についての趣旨を踏まえ、環境基準が達成された場合と同等の国内環境が保持されるようにするという観点から、飛行場周辺の 75W以上の区域において、屋内で 60W以下が確保できるよう助成措置を行っているところであり、現状 70Wに拡大する考えはないということをご理解いただきたい。 ・全室を対象とすることについて、これまで外郭防音工事については、地元の要望を踏まえ、特に騒音の著しい 85W以上の区域において、居住人数に関わらず住宅の家屋全体を対象としている。 ・今後の第 1種区域内の見直しに伴い、新たな区域内のすべての住宅に外郭防音工事の対象を拡大して実施する考えである。 ・告示後に建築された住宅の防音工事については、今後の第 1種区域の見直しにあたり、指定再告示方式により、新たな区域内の告示日時点までに建設された住宅を対象にするという考え方で対応していることをご理解いただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境基本法に基づき定められた環境基準これに定められた主旨を踏まえ、環境基準がこの達成された場合と同等の屋内環境が保持されるようにするために、飛行場周辺の 75W以上の区域において、屋内で 60W以下となるように、住宅防音工事の助成の措置をとっているところであり、70Wに拡大する考えはないということについてご理解いただきたい。 ・全室を防音工事の対象とする外郭防音工事については、地元の要望等を踏まえ、屋内環境の保全をより一層確保するために、特に騒音の著しい 85W以上の区域において、居住人数に関わらず住宅の家屋全体を対象として実施している。 ・告示後住宅については、地元に根強い要望があるものと承知している。今後、第 1種区域等見直しをする場合には、指定再告示方式により、新たな区域内の告示日時点までに建設されている住宅すべて対象とすることや新たに工事対象となるすべての住宅について、外郭防音工事を実施する考えである。

別紙 8

要望事項に関する回答要旨（防衛省）再編関連訓練移転等交付金

要望事項	北海道防衛局	地方協力局
1 令和9年度以降も訓練移転が継続される場合、再編関連訓練移転等交付金の延長や新たな交付金制度の創設など、訓練移転に係る交付金を継続すること	<ul style="list-style-type: none">訓練移転等が実施される再編関連特別防衛施設の周辺地域において、航空機騒音等により、住民生活への著しい影響の継続に特に配慮する必要があることを踏まえ、平成29年度から令和8年度までの10年間の時限措置という形で創設してきたものであるとご理解いただきたい。要望の件については本省にも伝えてまいりたい。	<ul style="list-style-type: none">訓練移転等が実施される再編関連特定防衛施設の周辺地域において、航空機騒音等による住民生活の著しい影響の継続に特に配慮する必要があるといったことを踏まえ、平成29年度から令和8年度までの10年間の時限措置という形で創設したものであることをご理解いただきたい。

令和7年度要望活動結果について (要望活動時の主な質問に対する回答要旨)

«新千歳空港事務所及び北海道エアポート(株)»

◆ 調整池の浸透対策工事進捗状況の説明について

- Q 新設調整池において、浸透対策を実施している最中と伺っているが、秋の騒音対策協議会で現状の説明をお願いできなか。
- A 調整池の工事については、新設調整池の遮水シートについて設置が完了したところであり、11月末に終了する予定。その取組の状況について、秋の騒音対策協議会においてご説明をさせていただきたい。

(新千歳空港事務所回答)

◆ 遅延便対策について

- Q 昨年度の遅延便数が729便と過去最高値だが、国としてどういうふうに捉えているか。また、今後どのような対策を取っていくのか。
- A エアライン各社も遅延便を減らす努力はしており、朝一便を確実に出す、また、途中で遅延が発生した際に、着陸して出発するまでの時間に少し余裕をみておくなどの工夫をしていただいているところである。

(新千歳空港事務所回答)

- Q 航空会社も人員・機材もそんなに余裕があるわけじゃないので、どこかで遅れた部分の挽回はできないと思った方がよいのではないか。
- A 機材が古く、目一杯回している航空会社もあれば、予備機材を常に確保しているところもあり、それぞれ会社の状況にあった対応は取っていただいている。また、最近は気象状況が急変しやすく、ゲリラ豪雨とか雷雨とかになれば、千歳でなくとも他のところで遅れてしまうようなことも影響している。

(新千歳空港事務所回答)

- Q 管理する立場として、遅延便が生じた時には、どのようなマイナスの影響があるのか。
- A 遅延が発生し、公共交通機関、いわゆるJRが運行を終えた時間に降りて来るようなことになり、ターミナルビルの残留とか滞留が出てしまう時には、その対応をすることとなる。

(新千歳空港事務所回答)

◆ 新千歳空港駐車場料金の値上げについて

- Q 新千歳空港駐車場の値上げについて、料金も3倍くらいに上がりになり、私どもとしては、非常に使い辛くなる。
- A 航空需要が伸びており、1年間のうちの3分の1くらいは満車状況、飛行機を利用するお客様がなかなか駐車場に入れない状況が多く発生していた。原因を検討

した結果、現状の駐車料金はＪＲ札幌駅からの往復料金よりも安い料金設定であることから、車で空港に来られるお客様が多く、その結果として満車が日々続いていると考え、思い切って駐車料金を値上げさせていただいた。

また、値上げでいただいた資金を元に、ターミナルから千歳寄りの用地に「D駐車場」を整備する予定である。

苫小牧市をはじめ、地元の皆様にはやはり空港に来ていただきたいと考えており、店舗とエンタメ施設の利用で最大8時間まで無料で駐車できるような取組を実施予定である。

(北海道エアポート(株)回答)

◆ ターミナルの増設について

Q 第2ターミナルですか、ＬＣＣ専用のターミナルという構想はないのか。

A 今のところ具体的な構想はないが、特に国際線が1月、2月にものすごい旅客数となっており、ターミナルビル自体では、やはり足りないという意見は出てくるが、それが過ぎた春から秋にかけてはそんなに多くの旅客数とならない状況。そこまでの投資が今のHAPの状況の中で良いのかという議論もあり、今後しっかりととした資金運営ができるようになれば、次に向けて考えていく時期がいずれ来るのかなと考えている。

(北海道エアポート(株)回答)

《国土交通省 航空局》

◆ 遅延便、航空機事故について

Q 遅延便が減らないどころか増えている現状をどう考えているのか。

また、昨年の日航機と自衛隊機の航空機事故を契機にかなりの数の航空機事故、軽微なものまで発生している状況についてお話を伺いたい。

A 遅延便の対策については、非常に小さい努力の積み重ねという形でやっているが、数字に繋がっていないところが地元の皆様も非常にご不満なところだと思うので、どうにか数字で表せるよう、今一度航空会社に対し話をしていきたい。また、悪天候の発生頻度が非常に増えてきているのも要因の一つとなっている。航空機事故の関係は事故調の管轄であるが、我々としては航空法の改正について、先日国会でも成立させていただいた。今後も打てる手立てを打っていきたい。

◆ 遅延便について

Q 航空会社への指導は、具体的にどのぐらいの頻度でやられているのか。

A 大手航空会社と意見交換のような機会があり、1か月に1回程度やっている。我々としても、遅延の抑制は重要な課題であると認識している。

◆ 新千歳空港のスルー化について

Q 国として実現に向けた展望等々あればお聞かせいただきたい。

A 鉄道の利便性向上が空港の機能強化においても非常に重要なものと我々としても認識しているが、一方で空港の敷地外も含めての話になるので、北海道庁、

J R 北海道、H A P 等関係者の中で、具体的な議論を進めていただく必要があると考えている。

航空局としては、鉄道局とも連携しながら対応していきたい。

◆ 空港排水の流出事案について

Q 昨年の事案に引き続き、今回もゲートが開いた状態で空港排水が流れ込んだと報告が来ている。そういう事案が発生した事に対して、今後どう指導していく方針か。

A 昨年の流出事案からマニュアルも作成し、しっかり徹底していくことでやっていたが、今度は関係者間の連携不足というところで流出事案が発生した。今回の事案の調査、対策についても、マニュアルに落とし込むような形になるが、そのマニュアルを徹底していくことしかなかなか答えを見出せない。

《国土交通省 東京航空局》

◆ 遅延便について

Q 航空会社にとって、遅延した際にペナルティはあるのか。

A 遅延したことに対して、ペナルティみたいなものはない。いずれにしても我々が担当官庁であり、引き続き指導・監督をしていきたい。

Q 本省の方でも、定期的に指導されているということだが、それとは別に東京航空局側からも何か指導はされるのか。

A 我々の所管する航空事業者についてはそうだが、大手のエアラインとなると、特定本邦航空運送事業者ということで本省の管轄になる。

◆ 新千歳空港のスルー化について

Q 今後の展望のようなものがあれば、お話を聞かせいただきたい。

A 利用者の利便性が大変向上するというという意味では重要なことであると認識しているが、費用面、実際誰がどう対応していくのかなど課題があり、今後検討していく必要があると認識している。

◆ 民航機の部品落下について

Q 各空港毎に、結果の公表ができるのか。

A 欠落の件数は主要 7 空港を離着陸する航空機に対して行っており、その合計件数を公表しているが、必ずしもその空港周辺地域で落としたのかどうかというところはわからない状況である。

空港毎に数字を出すと、あたかもその空港で落ちているようなミスリードになる可能性もあることから、まとめて報告をしているところなのでご理解いただきたい。

«防衛省 北海道防衛局»

◆ オスプレイの飛行について【レゾリュート・ドラゴン 25 関連】

- Q オスプレイの飛行情報について、もう少し地元に情報を流してほしい。
- A 知り得た情報については、速やかに苫小牧市をはじめ関係自治体の方に情報提供をするように努めているが、米軍の航空機については運用に関する事であり、詳細はなかなか把握できないという状況である。今後も知り得た情報があれば、できるだけ速やかに提供するよう努めてまいりますので、ご理解の程お願いしたい。

◆ 他国との訓練について

- Q 今までではアメリカ中心だったと思うが、昨年はドイツ、スペインとの共同訓練が実施された。今後もそういった連携を深めていくものなのか。
- A 現在、日米と同盟関係だけではなく、多国籍、同志国との関係を強めていこうと考えており、おそらく今後も同志国及びアメリカ以外の同盟国との訓練というのは、また実施されるというふうに考えている。

◆ 住宅防音工事について

- Q 住宅防音の関係で告示後の新築住宅の対象という説明があったが、詳しく教えてほしい。
- A 現在、指定再告示方式という方法を採用しており、航空機の騒音状況が変われば、状況をみて、改めて騒音の測定を行う区域を新たにもう一回線を引き直す。その際に、新たな線の範囲内に入ったところについては再度の告示日をもって、それまでにある建物については対象とするというふうな考えを持っている。
- Q 対象区域は変わらない、65Wでという意味か。
- A 音のレベルとしてはそうなる。そのレベルになるのが、新たな区域になる時にどうなるのかということで指定再告示となる。

«防衛省 航空自衛隊千歳基地 第2航空団»

◆ 戦闘機騒音について(航空祭事前飛行訓練)

- Q 今年の事前飛行訓練は、今まで考えられないような航路と高度で飛んでいた。騒音苦情等生じないようなことを徹底していただきたい。
- A 通常の飛行訓練と航空法等を遵守して、練習しているところであるが、航空祭の性質上、基地周辺での飛行となることから、大きな音が出やすいという傾向になるのかなと認識している。
今後も、騒音の軽減について努めてまいりたいと考えている。
- Q 今年度、95dB以上の音を観測したのが9回あり、それがすべて航空祭の事前飛行訓練によるものであり、そのうち、5回が100dBを超えていた。
過去、100dBを超えたのが、令和3年度に1回、令和4年度は0回、令和5年度1回、令和6年度2回であった。もう少し住民に配慮した飛行の仕方をお願

いしたい。

また、三沢のF-35が110dB、初めて市内で計測されており、機種に原因があるのかわかれれば教えていただきたい。

A 回数が多かった件については、ブルーインパルスが今年度飛行しなかったことから、それに代わる展示飛行を今回追加しており、F-15の飛行回数が例年よりも1つ、2つ種目を増やしたので、回数が増えた可能性がある。

F-35の特性に関しては知見がなく、他機と比較して音が大きいかどうかというのをここでは申し上げられない。

◆ 戦闘機騒音について

Q 市街地へ入って来た段階で、静かなスロットルワークを実践していただきたい。

A 基本的には緩やかな操作をして、飛行場周辺においては、急激な操作をせずに着陸できるような経路となる。大きな音がするのは、気流の変化だったり、気象の変化があった場合の対応ではないのかなと思うで、ご理解をいただきたい。

◆ 苫小牧西部地区の騒音苦情の増加について

Q 近年、苫小牧の西部地域の住民からの苦情が増加傾向にある。訓練の飛行ルートが変更になった等、原因があれば教えていただきたい。

A 経路に関しては大きな変更はない。一方でヘリコプター等の飛行については、若干苫小牧市街地のところを飛行するようなルートもありますので、風向き等で大きく聞こえたりはすると推察する。

◆ 北米・欧州親善訪問(Atlantic Eagle)について

Q 土日祝日の訓練演習、飛行ということであれば、できれば控えていただきたい。どうして祝日の朝、早朝になったのかというところをお聞きしたい。

A 万が一緊急事態が発生した場合において、その対処を万全にするため、昼間のいわゆる日の出から日の入りまでの間に飛行ができるようにということで計画をしており、日没時間の関係上、5時半頃の離陸をせざるを得なかつたというところであり、また、各国との日程調整上、今回の時間になったことをご理解いただきたい。

◆ スクランブルの状況について

Q 令和6年度が全体で704回、第2航空団が所属する北部方面隊では152回となり、一昨年に比べて増加しているが、現場としてはどう捉えられているか。

A 一概にいえないが、中国軍機またロシア軍機の飛行が増加していると、私どもも認識している。一方で、厳正な対領空侵犯措置であったり、防衛力の増勢をしっかりやっていくという認識のもと、我々としては対処していくということをご理解いただきたい。

《全日本空輸株式会社》

◆ 遅延便対策について

- Q 遅延対策として、どういう取組が始まっているのか、ご説明をいただきたい。
- A 具体的には、1つはブロックタイム、要は予定している飛行時間の延長というものを相当便数で実施をしている。併せて、一度便が着陸してから次の出発までの時間、ターンアラウンドタイムと呼んでいるが、その時間にある程度もう少し余裕を持たせ、そこでしっかりと十分な時間をとって運航便の準備をした上で出発をするということを実施している。
- Q こういった工夫で改善されましたという話を早く聞きたいが。
- A 先ほど申し上げたブロックタイム、ターンアラウンドタイムの延長だとか、かつてないほど余分な飛行機を使い、相当な時間の確保をした上で臨んでいるが中々結果が出ない。社会的責務もあり、そこから大きく逸脱していると社内でも強く言われており、引き続き努力してまいりたい。
- Q 雷の影響で地上の作業ができなくて、離陸できないという例が結構あるみたいだが。
- A ゲリラ豪雨というのが夏場相当な数が襲って来ていて、さらに風を伴った状態だと、一時的に航空機に係る作業すべてを停止するといったような状況も何度かあり遅延に繋がる。しかし、何年も似たような状況を繰り返しているので、そこに対しても打ち手を講じなければならないと強く思っている。

◆ グラハン人材不足の影響について

- Q グラハンの人材不足で遅延というのは起こるのか。
- A 少し前の状況からは改善はてきており、これまでなかなか例がなかった競合他社との協業体制をとることもいくつかの空港では始めている。

◆ 航空機の低騒音化について

- Q 機材の低騒音化について、何か方向性を含めまして、お考えありましたらお聞かせ願いたい。
- A 今後導入させていただく航空機、特に中大型機につきましては、ボーイング社の787型機を相当数発注を既にしており、そのいずれもが低騒音機といわれる類の航空機ということで承知をしているが、納入遅れが問題となっており、当社においても受領遅延が発生している。

◆ 航空機の飛行高度・航路について

- Q 地域から、最近離陸して旋回する時に高度が低いように見える、飛行航路も通常航路を逸脱した飛行をされていることが見受けられるといったような意見があるが、何か情報等あるか。
- A 基本的には決められた航空路を運航するが、天候状況により管制の了承を得て、迂回することもある。

Q 航路というのはある程度幅があり、普段通っていないところを飛行すれば外れないと感じる。また、離陸の際に高度が低く感じる航空機もあり、滑走路を目一杯使って離陸させるよう伝えてほしい。

A 承知した。

◆ 遅延便の他社との比較について、その他

Q 日本航空と比べて全日空の遅延便数が多いが、その辺のご事情があればお聞かせ願いたい。

A 日本航空の様々なデータと比較しても、うちより良いなということは認識をしている。双方競うよりもお互いが協調し、定時性を高めることが業界として信頼を勝ち取るということに繋がると認識している。

Q 搭乗客側の原因というのはどのくらいあるものか。

A 機種によって違うが、日本航空の小型機が定時性が高くて良いデータが出ているというのは認識しているが、搭乗客側の原因なのかということもなく、解析はしきれていない。

令和7年度上半期 新千歳空港における民航機の引き返し及び目的地外空港への着陸について

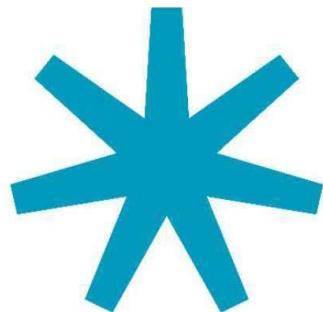
※天候不良を除く

	着陸日	種別	路線		航空会社便名	着陸理由		引き返し／目的地外着陸	理由詳細
			発	着		機材不具合	その他		
1	R7.4.13	国際	シアトル (アメリカ)	上海浦東 (中国)	DAL281		○	目的地外着陸	急患発生のため
2	R7.4.23	国際	蘇南碩放 (中国)	アンカレッジ (アメリカ)	GIT4802	○		目的地外着陸	飛行中にコックピットのウインドシールドにひびが入ったため
3	R7.5.3	国内	丘珠	名古屋	FDA396	○		目的地外着陸	ギアが格納できなかったため
4	R7.8.31	国際	羽田	コールドベイ (アメリカ)	HTT101	○		目的地外着陸	コンピューター関連不具合のため
5	R7.9.4	国内	新千歳	羽田	JAL500	○		引き返し	エンジントラブル（オイルプレッシャーアウト）のため
合計		国内	引き返し	1件（機材不具合1、その他0）		目的地外着陸	1件（機材不具合1、その他0）		
		国際	引き返し	0件（機材不具合0、その他0）		目的地外着陸	3件（機材不具合2、その他1）		

北海道エアポート株式会社調べ

目標管理値を超えた空港排水の流出について

(苫小牧市航空機騒音対策協議会資料11/27)



Hokkaido
Airports

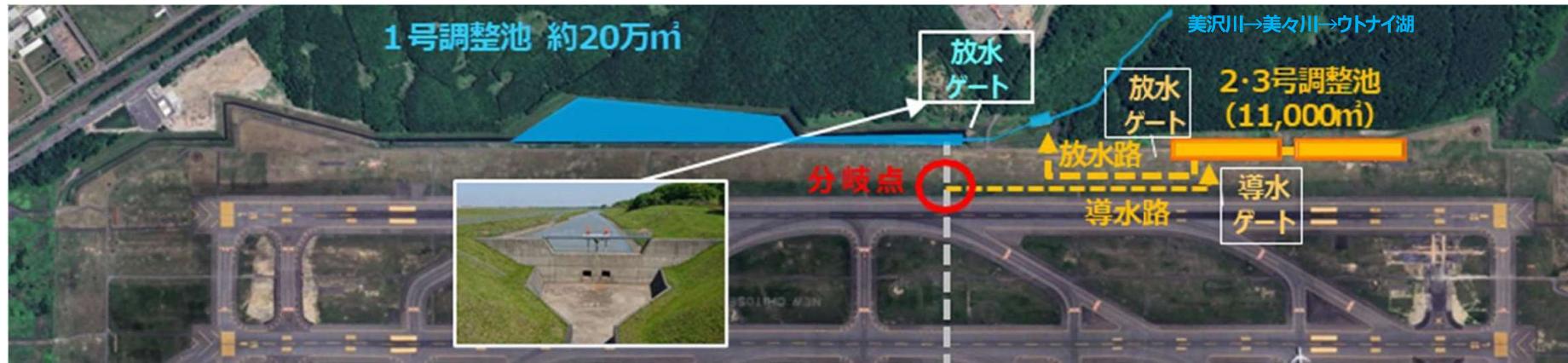
北海道エアポート株式会社

目標管理値を超えた空港排水の流出について

【事案概要】

2025年10月2日（木）採水した調整池出口のCOD値が高い数値を示したとの報告を10月3日（金）20:00に水質調査委託先から連絡を受け、10月4日（土）07:00、1号調整池放水ゲートを閉門した。

10月7日（火）、水質調査委託先より10月2日（木）に採水した調査結果が報告され、調整池出口のBOD値が目標管理値5mg/Lを超える15mg/Lであることが判明した。



【経緯】

- | | | |
|------------|-------|---|
| 10月 2日 (木) | 09:00 | 定期採水 |
| 3日 (金) | 20:00 | 水質調査委託先よりCOD値が高い数値を示しているとの報告を受ける |
| | 20:30 | 維持工事業者に放水ゲート水門周辺の状況確認を指示 |
| 4日 (土) | 07:00 | 1号調整池放水ゲート閉門 |
| 6日 (月) | 09:00 | 全箇所、臨時採水を実施 |
| | 09:00 | グランドハンドリング事業者に防除雪氷剤（有色ADF）の使用状況について調査および結果を受領 |
| 7日 (火) | 13:25 | 水質調査委託先より10月2日に採水したBOD値の検査結果を受領 |
| 14日 (火) | 08:50 | 水質調査委託先より10月6日に臨時採水したBOD値の検査結果を受領 |

目標管理値を超えた空港排水の流出について



【原因】

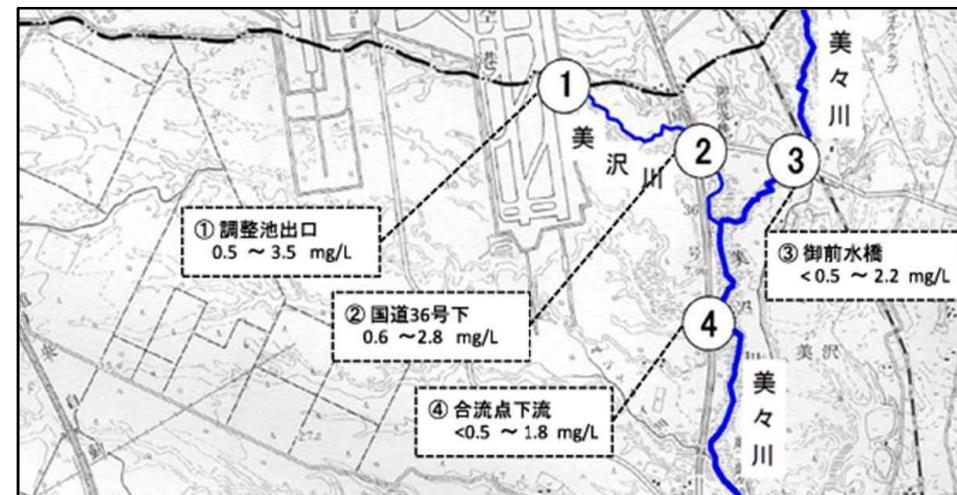
- グランドハンドリング事業者が実施する、防除雪氷剤（有色ADF）のシーズン前調査（※）の為、9月5日から10月2日の間、デアイシング作業車で散布作業が実施され、防除雪氷剤が雨水とともに排水路を経由し1号調整池へ流れた。
- 例年であれば、1号調整池の放水ゲートは基本的には閉門しているが、昨年は、降雪量が少なかったことから、貯雪ピットでの雪冷房は行われず8月27日から常時開門されていたため、ADFを含んだ排水が、沈砂池、美沢川に流れ込みBOD値が目標管理値を超えたと推察される。
- 北海道エアポートとグランドハンドリング事業者との間で、シーズン前調査の実施状況に関する情報共有が十分に行われていなかった。

【再発防止】

- 北海道エアポートは、運航者およびグランドハンドリング事業者（以下「運航者等」）に対して、シーズン前調査およびシーズン初回の防除雪氷作業（以下「シーズン前調査等」）を実施する場合は、調整池放水ゲートが閉門した後に実施するよう周知する。
 - 運航者等はシーズン前調査等を実施する場合は、北海道エアポートに報告する事とし、それを受けた北海道エアポートは放水ゲートを閉門したことについて運航者等に周知する。
 - 運航者等に新千歳空港の空港排水処理について説明の場を設けるとともに、上記2点について周知する場を設ける。
 - シーズン前調査等の実施タイミングや放水ゲート閉門時期、情報連携フローを明確化し、水門管理マニュアルに反映する。
- ※ シーズン前調査とは、毎年、運航者等の自主検査で、噴射性能や防除雪氷剤の濃度を測定・確認する作業などをいう。

水質調査結果（BOD値）

採水日	分析報告	①	②	③	④
		調整池出口	国道36号下	御前水橋	合流点下流
9月11日	9月17日	<0.5mg/L	0.8mg/L	<0.5mg/L	0.6mg/L
9月18日	9月24日	0.9mg/L	-	-	-
9月25日	10月1日	1.4mg/L	-	-	-
10月2日	10月7日	15mg/L	-	-	-
10月6日	10月14日	<0.5mg/L	<0.5mg/L	0.7mg/L	<0.5mg/L



<目標管理値>

目標管理値：BOD値 5.0mg/L以下

目標管理色度：有色ADF換算色度2以下

令和7年度 第1回苫小牧市航空機騒音対策協議会
p.24 令和6年度 放流期間中の水質測定結果抜粋

1号調整池からのBOD目標管理値を超えた 空港排水の流出に関する申入れ

新千歳空港につきましては、令和5年冬ダイヤから有色防除雪氷剤が使用されておりますが、令和6年3月国と北海道エアポート(株)の確認不足によりBOD目標管理値を超える空港排水の流出があり、今年度からは「調整池等水門管理マニュアル」に基づき排水管理を実施しているとのことでございます。

このような中、この度令和7年10月に発覚しました1号調整池からBOD目標管理値を超える空港排水の流出につきましては、北海道エアポート(株)と運航者等との間で、シーズン前調査の実施状況に関する情報共有が十分に行われていなかったという、度重なる人為的ミスを原因とするものであり、誠に遺憾であります。

つきましては、今後の関係者間での情報共有を十分に行うとともに、北海道エアポート(株)で行う調整池の維持管理について指導・監視を徹底し、美沢川及び美々川等の環境対策に万全を期していただきますよう強く申し入れます。

令和7年11月6日

国土交通省 東京航空局
新千歳空港事務所 空港長
黒川俊之 様

苦小牧市長 金澤俊
苦小牧市航空機騒音対策協議会
会長 松重茂雄

1号調整池からのBOD目標管理値を超えた 空港排水の流出に関する申入れ

新千歳空港につきましては、令和5年冬ダイヤから有色防除雪氷剤が使用されておりますが、令和6年3月国と北海道エアポート(株)の確認不足によりBOD目標管理値を超える空港排水の流出があり、今年度からは「調整池等水門管理マニュアル」に基づき排水管理を実施しているとのことでございます。

このような中、この度令和7年10月に発覚しました1号調整池からBOD目標管理値を超える空港排水の流出につきましては、北海道エアポート(株)と運航者等との間で、シーズン前調査の実施状況に関する情報共有が十分に行われていなかったという、度重なる人為的ミスを原因とするものであり、誠に遺憾であります。

つきましては、今後の関係者間での情報共有を十分に行うなど、改めて徹底した再発防止策を講じるとともに、調整池の適切な維持管理を行い、美沢川及び美々川等の環境対策に万全を期していただきますよう強く申し入れます。

令和7年11月6日

北海道エアポート株式会社
新千歳空港事業所 事業所長
袴 田 慶 一 様

苦小牧市長 金澤俊
苦小牧市航空機騒音対策協議会
会長 松重茂雄

新千歳空港 新設調整池及び既設調整池に係る 工事の進捗状況について

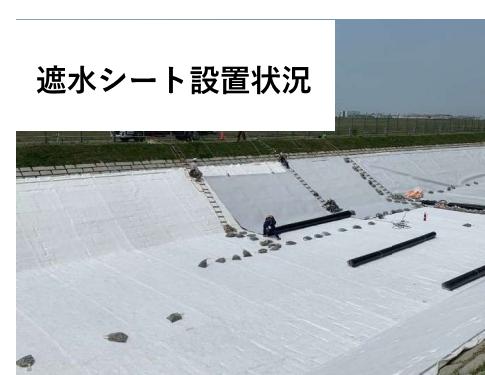
国土交通省 東京航空局
令和 7年11月27日



新千歳空港 調整池の容量拡張について

【概要】

新千歳空港の雨水排水を処理するため、空港内調整池の貯水能力向上（容量増加）を図ることを目的として、①新たな調整池の設置工事及び②既設の調整池の掘り増し工事を実施するもの



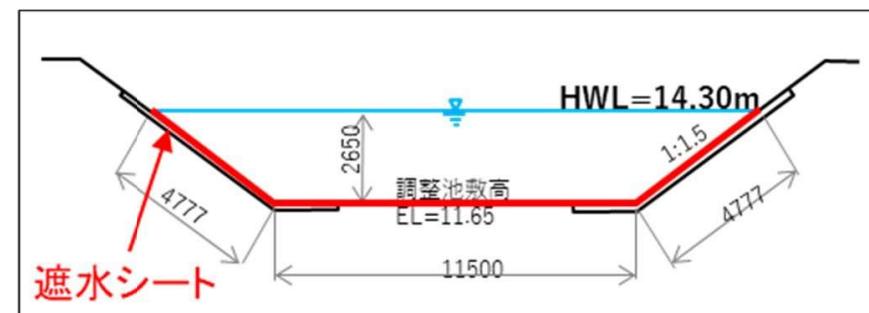
新設調整池及び既設調整池に係る工事の進捗状況

【整備計画】

整備計画	R5d	R6d	R7d	R8d予定
①新設調整池	新設工事	浸透対策検討	浸透対策工事	
②既設調整池			工法検討	掘り増し工事

【新設調整池】

- 令和6年6月に放水ゲートを閉塞した新設調整池の水位低下が確認され、新設調整池の浸透対策の必要性を確認し、対策検討を実施
→令和7年5月～7月に新設調整池の浸透対策として、遮水シートを設置（工事は令和7月11月28日完了予定）



【既設調整池】

- 現地調査を踏まえて「工法の検討」を行い、「掘り増し」及び「浸透対策等」を令和8年度に着手したいと考えております。

令和7年度 再編関連訓練移転等交付金予定事業（案）

(単位：千円)

	事業名	総事業費	交付金			
			①当初額 R7年4月	②変更後 R7年11月	②-① 増減	現額
植苗・美沢地区	植苗地区テレビ光ケーブル化事業（工事）	91,817	56,000	56,000	0	56,000
					0	0
					0	0
						0
	小計	91,817	56,000	56,000	0	56,000
沼ノ端地区	勇の原公園整備事業	51,667	43,000	43,000	0	43,000
	沼ノ端地区消火栓整備事業	13,167	8,000	8,000	0	8,000
					0	0
	小計	64,834	51,000	51,000	0	51,000
						40.9%
勇払地区	勇払地区津波避難施設整備事業	7,293	16,000	6,730	-9,270	6,730
	勇払地区津波避難施設整備事業（備品整備）	1,930		1,700	1,700	1,700
	勇払公民館浴室ろ過機改修事業	4,433		3,800	3,800	3,800
					0	0
	小計	13,656	16,000	12,230	-3,770	12,230
						9.8%
三地区含む共通						
	小計	0	0	0	0	0
						0.0%
共通	保健センター等医療機器整備事業（最終調整弁）	5,336		5,336	5,336	5,336
	小計	5,336	0	5,336	5,336	5,336
	合計	175,643	123,000	124,566	1,566	124,566
再編関連訓練移転等交付金			124,566千円（確定）			

令和8年度 再編関連訓練移転等交付金予定事業（案）

(単位 : 千円)

事業名		交付金	
植苗・美沢地区	植苗地区テレビ光ケーブル化事業（工事）	56,000	
	植苗小中学校教育環境整備事業	800	
	小計	56,800	50.3%
沼ノ端地区	勇の原公園整備事業	43,000	
	沼ノ端地区消火栓整備事業	7,400	
	沼ノ端コミセン施設等整備事業	1,800	
	小計	52,200	46.2%
勇払地区	勇払公民館改修事業【自動扉・網戸】	4,000	
	小計	4,000	3.5%
三地区含む共通			
	小計	0	0.0%
共通	保健センター等医療機器整備事業（最終調整弁）	0	
	小計	0	0.0%
合計		113,000	

再編関連訓練移転等交付金 113,000千円（見込み）